

# 富田城跡整備は、馬乗馬場や 千畳平の木々の伐採を進めます

うまのりば

新しい  
まちを  
創る  
シリーズ⑤

この連載では今年度、市が進めている大型事業の現在の様子や進み具合、今後の予定などを紹介しています。

## 全長百メートルの 細長い曲輪「馬乗馬場」

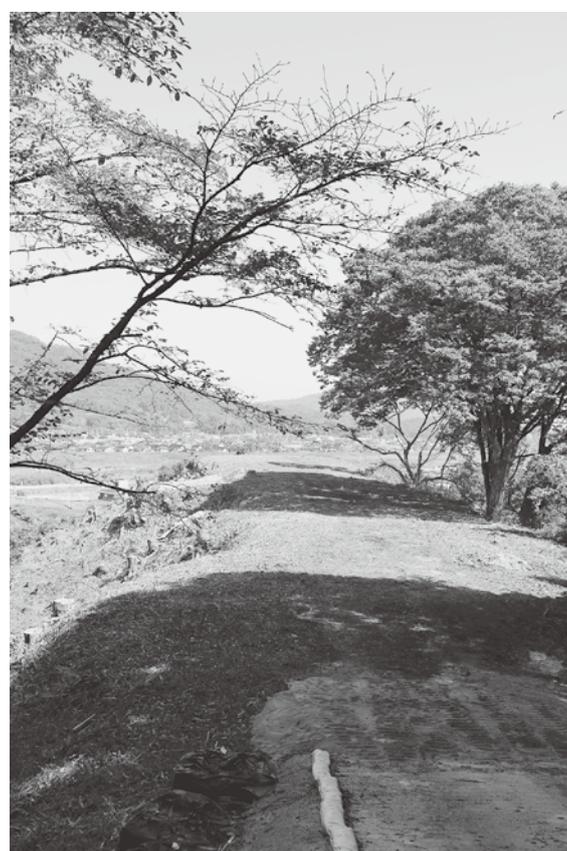
「北側に突き出た馬乗馬場と呼ばれる曲輪は、城郭の守りの最前線であったと考えられます」と話すのは教育委員会文化財課の担当職員。「大部分が崩れています。曲輪の半分は石垣に覆われていました」。

馬乗馬場とは、千畳平の東側にある全長約100メートルもの細長い曲輪です。これまでは木々に埋もれ、平坦面や石垣などを確認することはできませんでした。整備事業によって姿が見えるようになり、この城郭の北端の曲輪上に立って遠くに山頂を眺めると、巨大な山城を実感することができます。  
※現在は立入禁止です。

## 今年度は山裾の曲輪群を整備します

平成27年度から5年計画で進

◀平坦面が約100m続き、その先には飯梨川の下流域が広がります。





▲ 新安来庁舎4階から旧庁舎を撮影。60年以上にわたる歴史を終えました。

- ▶ 下段に見えるのが曲輪「馬乗馬場」。標高は約50m。
- ▼ 馬乗馬場では中世の石垣が確認できます。



めている富田城跡整備事業は今年で3年目。今年度は山裾の曲輪群の木々の伐採などを進めています。のり面工事などを経て、9月末には馬乗馬場の伐採が終了。引き続き、千畳平の斜面の伐採を行います。木々に埋もれた大石垣を、飯梨川の対岸からも確認することができるようになります。

また、城郭の整備にあわせて今年度は、富田城跡の麓に建つ歴史資料館の改修を進めていきます。2力年かけて館内のリニューアルを行い、ガイダンスや観光案内機能を持たせる計画です。

月山富田城跡を訪れた人に、整備した城郭をより深く理解してもらえよう資料館を目指していきます。

**旧安来庁舎は解体を進めています**

新安来庁舎は7月31日から開庁しています。旧安来庁舎の1号棟（本館）と3号棟は現在、工事用足場に囲われています。内部では解体作業が急ピッチで進められており、年内には終了する予定です。

解体後は、平成30年7月の完成予定で来庁者用駐車場やトイレ棟、公用車を保管する車庫棟

などを整備します。

一方、安来庁舎南側に整備する防災公園は、平成30年度末の完成を目指して準備を進めています。防災公園には、マンホールトイレや防災パーゴラ（日陰棚の一種で災害時には仮設の屋根や壁を取り付ける）などを整備していく予定です。人口が集中している市街地に近い場所に防災公園を整備し、緊急時に備えていきます。



▲ 9月24日に開催された「交通安全ふれあいコンサート」の様子。警察音楽隊と伯太中学校吹奏楽部の合同演奏がありました。

◀ スタインウェイ社製ピアノのお披露目となった「中ノ森めぐみコンサート」は9月24日、小ホールで開催されました。

**総合文化ホールは多くの皆さんが利用**

9月9日に開館した総合文化ホール「アルテピア」では現在、さまざまな開館記念事業を開催しています。9月18日には大ホールで歌舞伎によるこけら落とし公演が、24日には小ホールでピアノ開きコンサートが開催されました。23日には展示室で美術展がスタートし、多くの人でにぎわっていました。